

平成 26 年 9 月 15 日 (月) 掲載

LPGと軽油を混合 中型トラックで実証試験 だるまエナジー

だるまエナジー(古田洋二社長)は、最新ディーゼルトラックの燃料にLPGを混合する(デュアルフューエル化)実験を開始する。軽油よりも割安なLPGを混合することで、燃料コスト低減を図ることが実験の目的だ。実験では混合する割合や燃料費削減効果、走

行距離、走行性能、排ガスの環境性などを検証。その結果をトラックユーザーにPRし、LPGの需要拡大効果を狙う。

この「最新ディーゼルトラックへLPGガス添加し燃料費削減をトラック事業者等にPRする事業」は、日本LPGガス団体協議会が、国の補助金を受けて実施している。「2014年石油ガス事業者構造改善支援補助事業」の補助対象として採択された。

LPGと軽油の混合技術は既に確立されている。しかし制御が複雑な最新のクリーン・ディーゼルエンジンを、デュアルフューエル化した例はない。車両のデュアルフューエル化は、トラックの整備や低公害車関連事業用に豊富な実績のある城東自動車工場(鈴木啓一社長)が行う。ベース車両は三菱をうトラック・バス製の「キャンタ

ー」を予定しており、将来はより燃料費削減が期待できる大型トラックへの展開を視野に入れている。

最近、ディーゼルトラックの燃料である軽油価格は上昇傾向が続き、高止まりしている。運送事業者は競争が激しく、燃料価格の上昇を運賃に転嫁できない状況だ。燃料コストは運送事業者の経費に占める割合が大きいため、軽油価格の上昇は運送事業者の経営を圧迫している。

現在、LPG車の大半はタクシード。しかし、タクシードは減車が続き、いる上に、メーカーがタクシード用のLPG車の製造を取りやめることが決定しており、今後、LPGスタンドの経営が苦しくなることが予想される。その一方、安価な米産のLPGの輸入が本格化すれば、LPG価格の引き下げが期待できる

ため、LPG業界としては、トラック用燃料としての新規需要拡大に期待を寄せている。

ハイブリッド LPG車を導入

ダイエーガスワンガスワングループのダイエーガスワン(高橋雅行社長)は8月26日、山形県で初となるトヨタプリウスLPGトリプルハイブリッド車を導入した。

サイサンのLPG車普及活動に呼応したもので、北海道の拠点会社となるいちたかガスワンが先に導入したプリウスαに続いての採用となる。

導入したプリウス5ドアは5人乗りで、LPGタンク容量53・5ℓ、ガソリンタンク45ℓとなり、LPG車へ改造を行ったケイテック(小松豊社長)はそれぞれの燃料で900kmずつの走行を想定している。